

公立阿伎留医療センター

No.98 令和2年1月



地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

新年のご挨拶

地域医療連携センター長（副院長） 榎田 光夫

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては良い年をお迎えのことと思います。

公立阿伎留医療センターは秋川流域の急性期病院として患者さんの診療にあたるだけでなく、回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床、緩和ケア病床も活用しながら地域のニーズに応える病院を目指して本年も診療にあたっていきたくと思います。

今年は東京オリンピックを迎える年となりました。開催が決定された際にはずいぶん先のことと思っていましたが、時間が経つ速さに戸惑いを感じます。オリンピックが東京に来るのだから、どの競技を見に行こうか、誰と行こうかなどと漠然と思いを巡らせていましたが、現実には厳しいもので入場券が手に入らないという大きな壁に阻まれました。ではマラソンを沿道で応援と思いきや、札幌開催に突然の変更、思うように事は運びません。

地域医療連携センターの仕事も同様で、地域の皆様の要望にお応えするには多くの壁を乗り越えなければなりません。現在地域医療連携センターでは入退院支援が主な仕事ですが、高齢化社会を迎え、自宅から入院して治療後退院可能になっても自宅での生活が限界で、介護老人保健施設や療養型病院などへ移行しなければならない患者さんが極めて多く、その連携に非常に多くの時間を費やしております。

一方、入院の受け入れは、医師のマンパワーが大きな要素となります。懸案であった一般内科の医師が昨年从我々の仲間に加わっていただくことができ、受け入れ態勢の強化が得られ、ご紹介いただく患者数も増加いたしました。

今年も地域とうまく連携していくための工夫を一つひとつ積み上げながら、少しでも思い描く連携が達成できるよう職員一同力を合わせて努力していこうと思います。

患者さんの経過や必要な書類など気になることがありまらお気軽にご連絡いただければと思います。顔の見える連携を目指し、本年も職員一丸となって連携を進めていきたいと考えております、どうぞよろしく願いいたします。



ご挨拶

総合内科長 竹迫 弥生

令和元年9月から公立阿伎留医療センターに赴任し、総合内科科長を拝命いたしました。

4階西の地域包括ケア病棟に常駐し、各科・多職種と共に加療と並行して患者さんのご本人らしい生き方を支えるための保健・医療・福祉の調整を含めたケアの提供をめざしています。

他医療機関通院中の方や在宅療養中の方、他医療機関からこの地域における在宅復帰をめざす方、また社会的な問題ゆえに在宅ケア導入に困難をきたしている方の一時入院等も、実際にケアにあたる病棟スタッフと相談しながら少しずつお受けしております。

総合内科外来では、当日徒歩で来院された初診の患者さんとそのご家族やケア提供者とお会いして、検査・治療方針を共に考え、最善の方法を検討し、生活を支えるための医療を模索する方針としております。

皆様と共に、この地域にお住まいの方々の生活を支えるケアの一翼を担えるよう、共に学びつつ前進したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

総合内科医長 佐々木 真一

令和元年9月から公立阿伎留医療センターに着任し、総合内科医長を拝命いたしました。総合内科は生活習慣病や感染症をはじめ、診療科が特定できない症例や、複合的な問題を抱えた症例など様々な患者様を対象とした診療科です。発熱や浮腫、倦怠感、呼吸困難など何科に相談したらよいか分からない場合、是非当科にご紹介ください。

呼吸器内科医としての経験に加え、他科の医師と有機的な連携をとることで、様々な視点から病態に迫っていきたいと考えています。

中核病院の窓口としての役割を念頭に、家族背景などの社会的背景も考慮した丁寧で迅速な医療を提供していきます。ご紹介やご相談をお待ちしております。

総合内科（常勤）外来担当医表

月	火	水	木	金
竹迫 弥生	國吉 孝	竹迫 弥生	國吉 孝	佐々木真一
	佐々木真一			

ご挨拶

循環器内科 古味 良亮

令和元年10月より就任した古味良亮と申します。

岩手医科大学卒業後、大学病院、市中病院の循環器科で勤務し、2018年に大学院を卒業し、その後東京都内の病院で勤務して参りました。

西多摩地域の病院勤務は初めてとなりますが、母の実家が青梅にあり親族も多いため、幼少期から長期休みではたびたび西多摩地域に滞在しておりました。縁の深い西多摩地域で勤務できることを、大変うれしく思っております。周囲の病院や医院の専門性や地名等の位置関係がまだピンときていない状況ですが、早く地域に溶け込み、患者さんとの信頼関係を築いていきたいと考えております。

循環器内科は心筋梗塞、狭心症、不整脈、高血圧症、心不全、閉塞性動脈硬化症、肺動脈血栓塞栓症、深部静脈血栓症など心血管系疾患を診察し治療しています。心臓血管外科での治療や不整脈に対するカテーテルアブレーション等が必要な場合は他施設へ紹介しています。

循環器疾患は、心不全や心筋梗塞など同じ診断名でも、年齢、重症度、基礎疾患、併発症、生活環境などにより検査や治療の内容は変わってきます。必要となる治療は患者さんの背景により一人一人異なり、患者さん本人だけでなくご家族の理解と協力が必要となる場合が多くあります。患者さんやご家族に病気のことを適切に理解していただき、最適な医療を受けていただけるよう、病院スタッフと協力し尽力してまいります。宜しくお願い申し上げます。

令和元年度 登録医、登録歯科医及び地域医師会先生方との情報交換会について

令和元年10月21日（月）19時30分よりイオンホールにて、令和元年度登録医、登録歯科医及び地域医師会先生方との情報交換会が開催されました。一題目の症例として、リウマチ科医長の立花秀介先生による『高齢発症関節リウマチの治療法』二題目の症例として、緩和治療科部長の小林薫先生による『緩和ケア病棟の現状報告と今後の運営方針について～秋川流域の地域緩和ケアに資することを目指して～』をテーマに講演を行いました。

医師会、歯科医師会の先生方を始め、当医療センター関係者等多数の方々にご参加いただき、ありがとうございました。



リウマチ科 立花秀介先生



緩和治療科 小林 薫先生



質疑応答 米山医院
米山公啓先生

放射線科からのお知らせ

骨密度検査を承ります！

放射線科長（放射線技師） 花岡 明

健康人の骨組織では、常に活発な骨形成と骨吸収（破壊）を繰り返しながらもその間にバランス（動的平衡状態）が保たれているために、骨量は一定に保たれて運動器官としての構造及び強度が維持されています。

骨粗鬆症とは、老化や閉経など様々な原因によって、骨代謝における骨吸収・骨形成の平衡関係が破綻した結果、骨からカルシウムが失われて骨量が減少し、このため骨の微細構造に劣化が起こって、脆弱性が増大して、ちょっとした刺激で病的骨折を起こしやすくなった骨疾患の病態を指します。骨粗鬆症破綻運動をあまり行っていない高齢の女性の大腿骨や脊椎骨に起こりやすい傾向がありますので、老化現象の一つとして、捉えることができます。

DXA法（二重X線エネルギー吸収測定法）で腰椎骨の骨密度を測定して、YAM（若年成人平均骨密度値、20歳～40歳）の80%以上が正常、YAMの70%以上80%未満が骨量減少、YAMの70%未満が骨粗鬆症と判定されています。

骨粗鬆症のある方は、くれぐれも転倒骨折の予防を心がけていただきたいと思います。骨粗鬆症の治療については、最近新しい薬剤が多数ありますので、整形外科を受診して、ご相談下さい。



○検査概要

微量のX線を使用し、短時間で骨密度が測れます。定期的に検査を行うことで、骨密度の低下を早期に発見し、骨粗しょう症や骨折の予防・治療に役立ちます。

○検査方法

専用測定装置にて、ガイドライン推奨の「腰椎」および「大腿骨近位部」を測定します。

○費用（保険適用）

700点＋初診料

（内訳）

検査費用

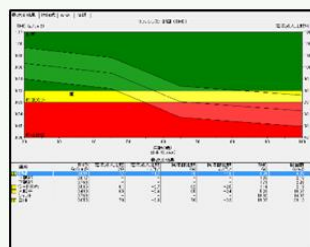
450点

診療情報提供料

250点

○検査結果

即日患者さんに手渡します。



私もおススメします！

「私も日々の診療に骨密度検査を使っています」

整形外科部長 小野医師



予約のお問い合わせ

午後（応相談）

～詳細は下記まで～

放射線科直通

TEL 042-558-0321

（内線）2200